

2011年7月の東北地方の天候

【7月の特徴】

- 上旬・中旬の顕著な高温、下旬の低温
- 早い梅雨明け

(1) 2011年7月の概況

上旬は天気は数日の周期で変わったが、南から暖かい空気が入り気温はかなり高くなった。梅雨明け後の中旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、気温がかなり高くなかった。下旬は太平洋高気圧の張り出しが弱まり、前線や気圧の谷、オホーツク海高気圧の影響を受け、曇りや雨の日が多く、気温は低くなかった。27日から30日にかけては、「平成23年7月新潟・福島豪雨」と命名した豪雨があった。

東北南部・東北北部ともに7月11日ごろ梅雨明けしたと見られ、東北南部は平年より14日早く、東北北部では平年より17日早い梅雨明けとなった（速報値）。

月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、前線や低気圧の影響と高気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わった。1日は梅雨前線の影響で山形県を中心に大雨となった。4日から5日にかけては、寒冷前線が東北地方を通過したため各県で大雨となったところがあった。8日は梅雨前線の影響で秋田県で大雨となったところがあった。期間を通して南から暖かい空気が入り、気温はかなり高くなかった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

中旬：この期間、高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、地上の昇温や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、局地的に雷雨となる日が多く、大雨となったところがあった。19日から20日にかけては、台風第6号の影響で福島県、宮城県、岩手県で大雨となったところがあった。期間を通して暖気に覆われ、気温はかなり高くなかった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

下旬：期間のはじめはオホーツク海高気圧の影響で、東北太平洋側で曇りの日が多く、東北日本海側で晴れの日が多かった。期間の中頃からは、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、局地的に雷雨となる日が多く、大雨となったところがあった。27日から30日にかけては、前線の活動が活発となり、新潟県から福島県にかけて豪雨となった。気象庁はこの豪雨を「平成23年7月新潟・福島豪雨」と命名した。期間のはじめと終わりを中心に、北からの寒気の影響を受け、気温は低くなかった。

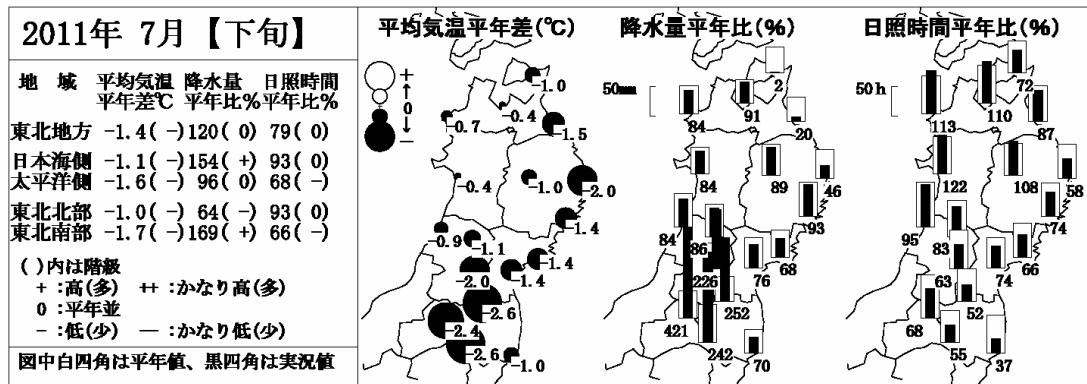
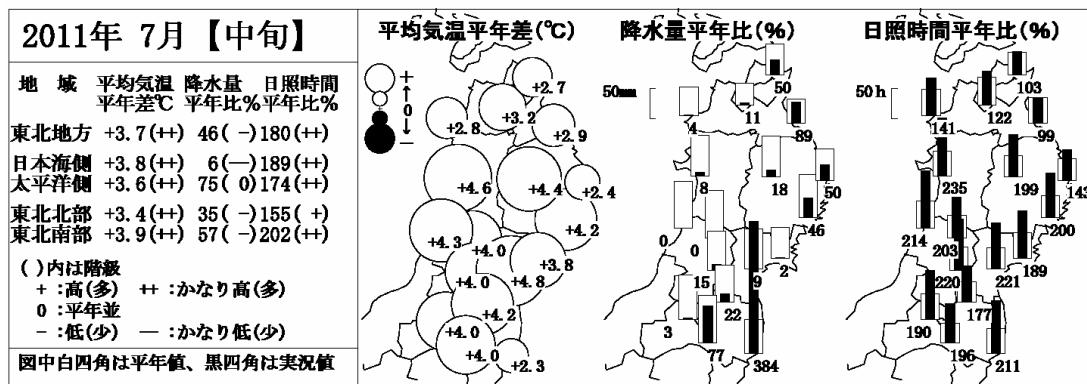
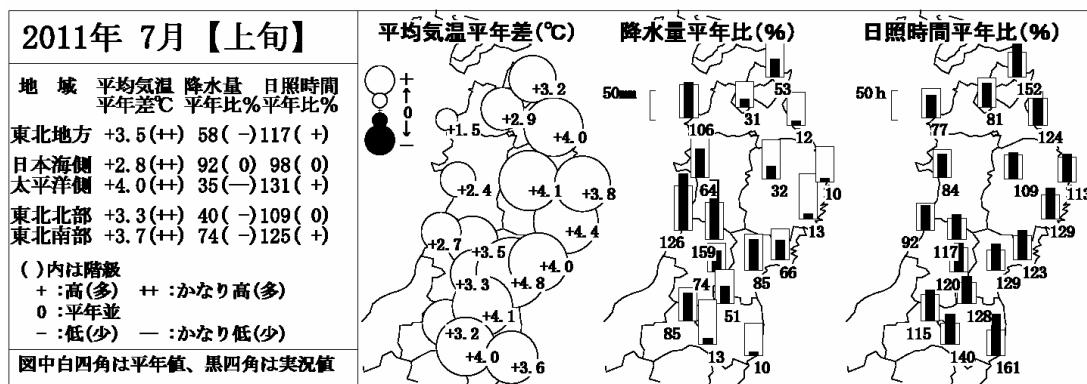
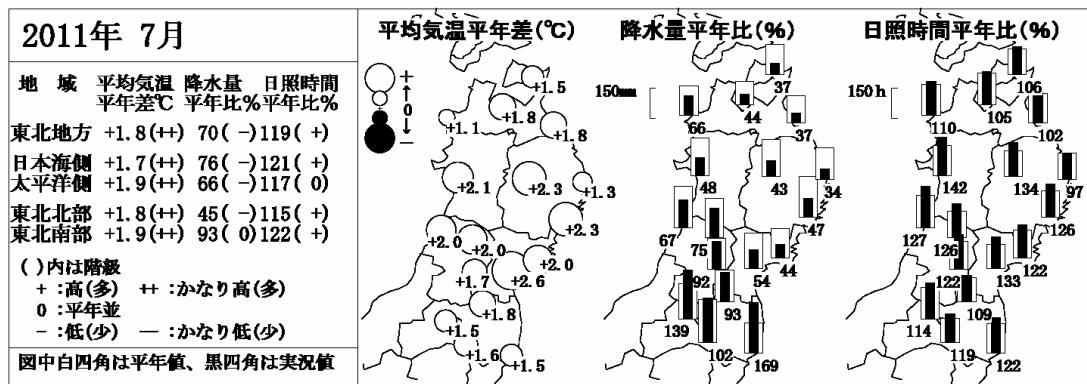
平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2011年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1981~2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2011年7月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			≥1mm	(h)	
青 森	22.9	(+1.8)	+	52.0	(44)	—	8)	166.8	(105)	○
深 浦	22.4	(+1.1)	+	100.0	(66)	—	7	172.2	(110)	○
む つ	21.0	(+1.5)	+	56.5	(37)	—*	4	140.0	(106)	○
八 戸	21.9	(+1.8)	+	50.5	(37)	—	8	151.1	(102)	○
秋 田	25.0	(+2.1)	+	91.0	(48)	—*	8	212.7	(142)	+
盛 岡	24.1	(+2.3)	+	79.5	(43)	—	12	171.8	(134)	+
大 船 渡	23.3	(+2.3)	+	95.5	(47)	—	9	167.5	(126)	+
宮 古	21.1	(+1.3)	+	54.0	(34)	—	13	130.4	(97)	○
仙 台	24.8	(+2.6)	+	96.5	(54)	—	9	159.2	(133)	+
石 卷	23.4	(+2.0)	+	65.5	(44)	—	7	167.7	(122)	+
山 形	25.0	(+1.7)	+	144.0	(92)	○	11	174.6	(122)	+
新 庄	24.4	(+2.0)	+	147.0	(75)	—	11	169.5	(126)	+
酒 田	25.3	(+2.0)	+	140.0	(67)	—	9	208.6	(127)	+
福 島	25.4	(+1.8)	+	148.5	(93)	○	14	134.5	(109)	○
若 松	25.0	(+1.5)	+	244.0	(139)	+	13	182.6	(114)	+
白 河	23.8	(+1.6)	+	221.5	(102)	○	13	144.9	(119)	+
小 名 浜	23.5	(+1.5)	+	254.0	(169)	+	11	180.1	(122)	+

(注) 1. 平年値は 1981~2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。

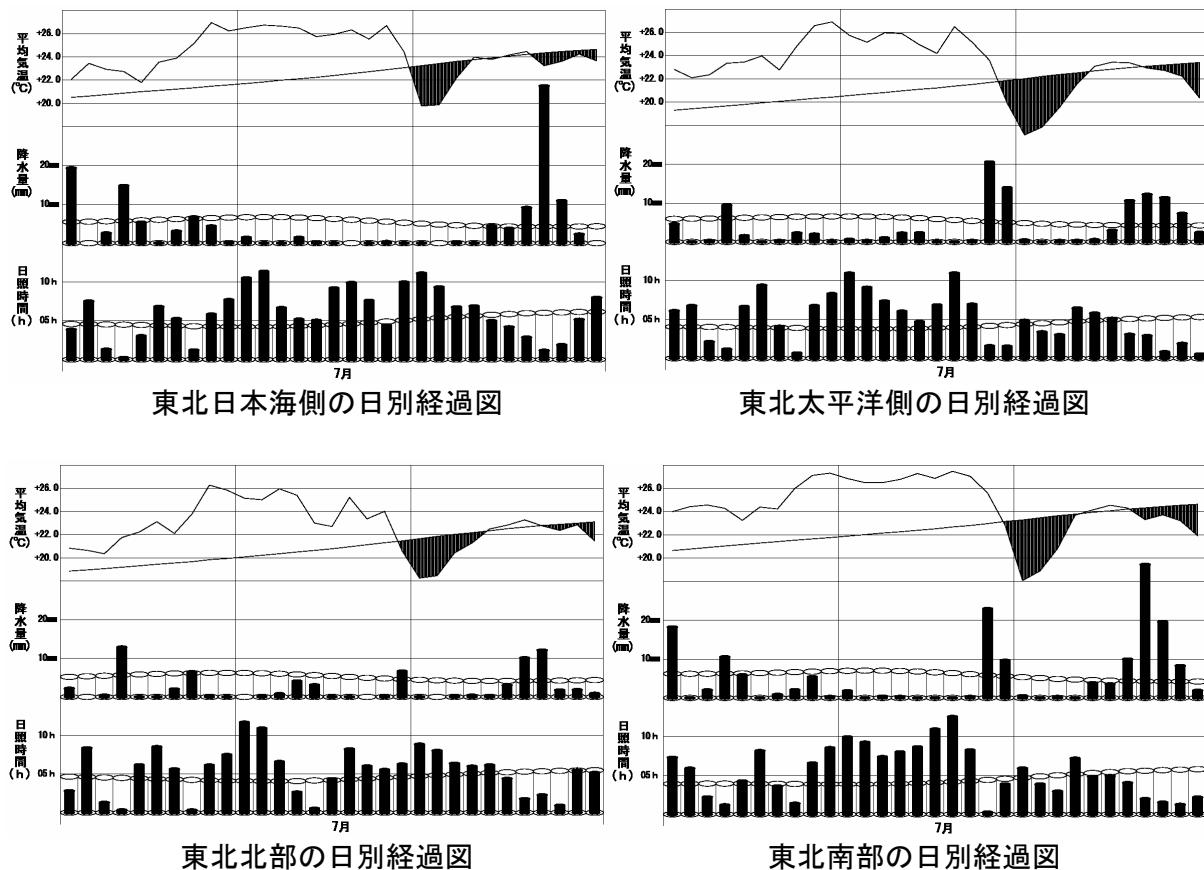
また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値（準正常値）は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値（資料不足値）については、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2011年7月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2011年7月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 °C	平年差 °C	これまでの最高 °C (西暦年)	開始年	平年値 °C
3	大船渡	23.3	+2.3	23.8 (2010)	1964	21.0

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量少い方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

3位以内はなし

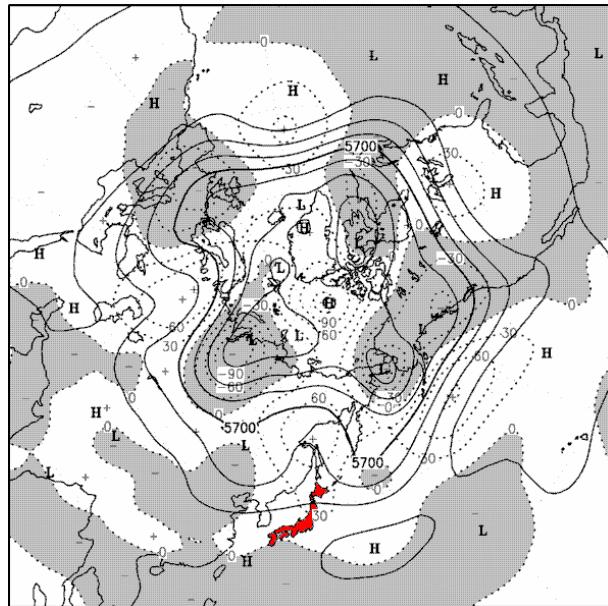
月間日照時間少い方からの順位更新

3位以内はなし

(7) 2011年7月の循環場の特徴

500hPa 高度は、北半球では偏西風の蛇行が顕著で、極東では偏西風は南北に分かれオホーツク海を中心に正偏差となった。

東北地方は正偏差に覆われて、気温が高くなつたが、オホーツク海高気圧の影響を受けた時期もあった。



2011年7月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。
陰影部は負偏差(寒気に対応)

(8) 2011年の梅雨明けの状況(速報値)

地方	平成23年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6月9日ごろ	14日早い	10日早い	6月23日ごろ	6月19日ごろ
奄美	6月22日ごろ	7日早い	23日早い	6月29日ごろ	7月15日ごろ
九州南部	6月28日ごろ	16日早い	22日早い	7月14日ごろ	7月20日ごろ
九州北部	7月9日ごろ	10日早い	8日早い	7月19日ごろ	7月17日ごろ
四国	7月8日ごろ	10日早い	9日早い	7月18日ごろ	7月17日ごろ
中国	7月8日ごろ	13日早い	9日早い	7月21日ごろ	7月17日ごろ
近畿	7月8日ごろ	13日早い	9日早い	7月21日ごろ	7月17日ごろ
東海	7月8日ごろ	13日早い	9日早い	7月21日ごろ	7月17日ごろ
関東甲信	7月9日ごろ	12日早い	8日早い	7月21日ごろ	7月17日ごろ
北陸	7月9日ごろ	15日早い	8日早い	7月24日ごろ	7月17日ごろ
東北南部	7月11日ごろ	14日早い	7日早い	7月25日ごろ	7月18日ごろ
東北北部	7月11日ごろ	17日早い	7日早い	7月28日ごろ	7月18日ごろ

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成22年(2010年)までの過去30年の平均(入り・明けを特定しなかつた年は除外)の日付です。